

高温登熟による品質低下を防ぐため、間断かんがいを行うとともに、
適期収穫により品質向上に努めましょう。

【管内生育定点調査ほ場（コシヒカリ）の出穂状況と成熟期の予測】

水稻定点調査圃場の出穂期は、水戸市で平年並、茨城町で平年より3日早く、移植日が平年より1週間早い小美玉市、那珂市では、平年より4日（那珂市）～10日（小美玉市）早い。

日平均気温と日長データを用いたモデル※¹から予測した成熟期は、水戸市で平年より4日、茨城町で6日、小美玉市で7日早く、那珂市で平年並である。気象庁によると、東日本の向こう1か月の気温は平年より高い確率が70%であり（7月30日14時30分発表）、成熟期は予測日より早まる可能性がある。

表 日平均気温と日長データによる成熟期予測（8/5時点）

調査地点	移植日 (平年値)	出穂期 (平年値)	予測成熟期※ ² (平年値)
水戸市 坏大野	5/5 (5/4)	7/28 (7/28)	9/6 (9/10)
茨城町 上石崎	5/2 (5/6)	7/25 (7/28)	9/3 (9/9)
小美玉市上 玉里	5/15 (5/22)	7/27 (8/6)	9/5 (9/12)
那珂市 鹿島	5/19 (5/26)	8/4 (8/8)	9/14 (9/14)

※¹ 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室のモデルにより算出。

※² 予測成熟期は、平年並の気温で推移したと仮定して予測したものであり、今後の気象により変動する可能性があるため、圃場を良く観察し、帯緑率により成熟期を確認すること。

【今後の栽培管理】

1 適正な水管理

- ◆高温登熟による乳白粒・胴割粒等を防止するため、落水までは間断かんがいを行う。
- ◆早期落水は、乳白粒・胴割粒の発生を助長する。落水時期の目安は、「あきたこまち」で出穂後25日以降、「コシヒカリ」・「ふくまる」で出穂後30日以降である。

2 適期収穫

- ◆コンバインによる「コシヒカリ」の収穫適期は、成熟期（緑色を残した粳の割合が全体の10%程度のとき）から5日間であり、出穂期後35～40日頃が目安である。
- ◆登熟期間の高温や刈り遅れは胴割粒の発生が著しく増加する恐れが高いため、適期に収穫できるよう、帯緑率（緑色を残した粳の割合）から収穫適期を判断する。
- ◆出穂のばらつきにより登熟ムラが大きい場合には、胴割粒を防止する観点から、早めに登熟した穂に合わせて収穫する。
- ◆台風や大雨等により倒伏した場合には、未熟粒や穂発芽等の発生による品質の低下が懸念されるため、倒伏部分の刈り分けを検討するとともに、適期収穫に努める。

3 適正な乾燥

- ◆急激な高温乾燥は胴割粒を増加させるため、穀温が40℃以下で乾燥する。乾燥の目標水分である15.0%となるよう、乾燥機を一旦停止させ、水分の戻りや進み具合を確認して仕上げる。
- ◆高水分粳を収穫した場合や水分のバラツキが大きい場合には、連続した乾燥により胴割粒の発生につながるため、粳水分が18%程度で一度乾燥機を止め、1日程度貯留した後に再度乾燥する二段乾燥を行う。